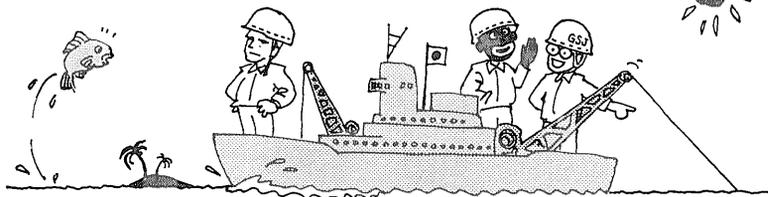


海外室だより



No.15

サバンナに行く タンザニアからロンドンに出る飛行機は いまだに週1便の月曜日だけである。このためフォローアップ・チーム アフリカ最後の週末は 首都を離れてミクミ国立公園で過ごすことになった。

ミクミはダルエスサラームの西方250kmに位置し(図1参照) この国では非常に多い国立公園・動植物保護区(10カ所 88,500km² 日本の2.5倍の国土の9.4%を占める)のひとつである。ザンビアに向かう主要国道に面し首都に近いこと 標高1,000m前後の高地で気候がよいことなどから 欧米のサファリー客にも人気が高い。我われにはインド洋から離れた内陸乾燥地帯-サバンナの水事情を見ておきたいという気持もあった。

土曜日の昼過ぎ 炎天下のダルエスサラームを出発したフォルクスワーゲン・コンポは 1時間ほどで まずルブ川に達する。この川は首都の上水をまかなう大事な水源であり イギリスが委任統治時代に敷設した浄水場が残されている。しかし老朽化がひどいため 日本の無償援助で揚水ポンプと送水管の改修工事が行われていた。

車はタンザニア中央鉄道(およそ100年前 ドイツ領時代の建設)に沿い さらに西へ進むと標高500~1,000の緩やかな丘陵地に入る。遊牧から農耕に移って間もない地域で 中心は州都のモロゴロである(図1)。国道は

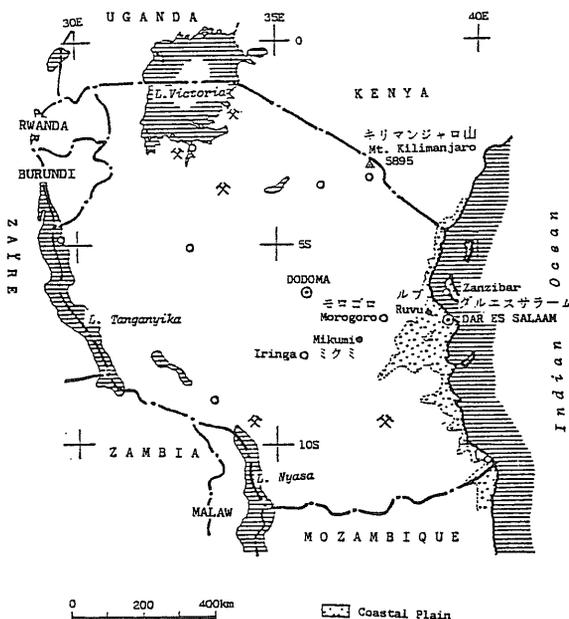


図1 タンザニア略図

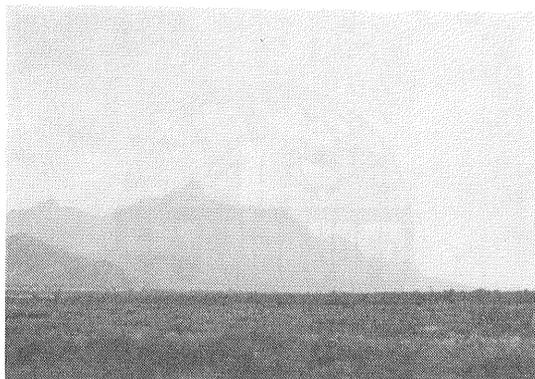


写真1 モロゴロ西部の山並み

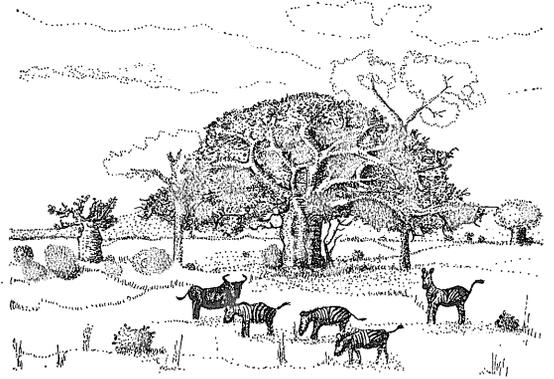


写真2 草原のカバの池-ミクミ

ここから西のゴゴランド（乾燥した内陸高地）と南西のホワイト・ハイランド（冷涼・湿潤な南部高地）方面へと分かれる。

南西の道に移って間もなく 左手に非常に奇妙な形の山並みが見えてきた（写真1）。はじめはよく分らなかったが “タンガニーカ地質図”によれば付近一帯は有名なモザンビーク造山帯の中にあり これに貫入した変はんれい岩（metagabro）の岩脈に対応している。夕暮れ近くミクミに到着し 国営のワイルドドライブ・ロッジに泊る。ここはワミ川の上流にあたり 標高1,000 m 以上の山中にあるため 夜間は日中の暑さを忘れるほどの涼しさだった。

翌日は高台のロッジを下りて サバンナの動植物や水場を視てまわる。ミクミは丘陵から山地に移るところにあるため 高度による植生や動物の種類の変化がはっきりしていた。高台ではアカシヤなどの木の葉を好むキリンや象が多く 低地には草食のシマウマやヌー（牛カモシカ）が群れ 近くの数にはライオンが潜んでいた。また低地には沼もあり 水鳥やカバの格好な水場となっていた（写真2）。最後のスケッチは草地に生え



“恐ろしいバオバブ”——ミクミ

るバオバブ（Baobab *Adansonia digitata*）の木立を写したもので 有名な“星の王子さま”に出てくる奇妙な形の樹である。異常に太い幹は サバンナのきびしい渇きにたえるための進化によるものであろうか。

（斎藤）

紋どころ（番外編）

標記タイトルで世界の地質関連機関の紋章を本欄に連載しましたが 番外として2つのシンボル・マークを紹介します。すでに本欄にも何度か登場していますように 当所では 発展途上国の技術者を対象とした集団研修 「沿海鉱物資源探査」及び「地下水資源開発」の2コースを毎年実施してきました。1967年に始った両コースは 本年度が20周年の節目にあたります。それを記念に 図のようなシンボル・マークを作成し 関係文書等に使用することになりました。両コースの研修生はそれぞれのマークのバッジをつけていますので みかけた時には一声かけてあげて下さい。

すでにお気付きと思いますが これらマークのデザインは 本欄のタイトル・バック同様 河村幸男君の手によるものです。御紹介が遅くなりましたが 同君は前任の狩野君（2年7カ月の間御苦労様でした）に代って 本年5月から海外室の事務を担当しております。外国人と接する機会の多い当室の雰囲気刺激されてか 目下英会話の特訓中です。すでに有名になっているイラストレーターの看板に インタープリターの一枚が加わる日も遠くないものと期待されています。前任の狩野君同様 よろしく願い申し上げる次第です。 （遠藤）



沿海鉱物資源探査コース



資下水資源開発コース

これから開催される地学関係の主な国際会議

名称, 開催時期, 場所	連 絡 先	要旨制限, 締切日, 登録料等
Hawaii Symposium on How Volcanoes Work 1987年1月19—25日 Hilo, Hawaii, USA	Hawaii Symposium Program Committee, c/o Donna Afra, U. S. Geological Survey, MS 910 345 Middlefield Road, Menlo Park, CA 94025, USA	タイプ用紙 (21×29.5cm) 半ページまたは全ページ 先着 500 名まで US\$ 350
Intn'l Conference on the Vulnerability of Soil and Groundwater to Pollutants 1987年3月30日—4月3日 Noerdwijk Aan Zee, Netherlands	VSPG '87 c/o Klvl P. O. Box 30424, 2500GK, Hague, Netherlands	締切済 Dfl. 590 (1Dfl.≒0.3 US\$)
12th Intn'l Geochemical Exploration Symposium 4th Symposium on Methods of Geochemical Prospecting 1987年4月23—26日 Orleans, France	The Organization Committee of the Geochemical Exploration Symposium, 12th IGES-4th SMGP. BRGM, B. P. 6009, 45060 Orleans Cedex 02, France	1,000語以内 1986年11月30日 登録料不明 シンポジウム前 (3日間) 後 (4日間) の巡検あり
Intn'l Symposium on Acidification and Water Pathways 1987年5月4—8日 Bolkesj�, Norway	Norwegian National Committee for Hydrology P. O. Box 5091, Majorstua, 0301 Oslo 3, Norway	要旨締切済 参加申込締切日 1986年12月1日 NOK 1,000 (1 NOK≒0.1 US\$)
Intn'l Symposium on Engineering Geological Environment in Mountainous Areas 1987年5月4—8日 北京 (Beijing) 中国	Prof. Wang Sijing Organizing Committee International Symposium on Engineering Geology Institute Geology, Academia Sinica P. O. Box 634, Beijing, China	締切済 登録料不明
1st Intn'l Congress Geochemistry and Cosmochemistry 1987年6月30日—7月6日 Paris, France	Prof. C. J. Allegre Laboratoire de Geochimie et Cosmochimie 4, place Jusseu-Tour 14-3 etage 75252 Paris Cedex, France	詳細は直接左記へ
Intn'l Symposium on the Terminal Precambrian and Cambrian Geology (1st Circular) 1987年8月8—14日 宜昌 (Yichang) 中国	Dr. Wang Xiaofeng Secretariat of ISTPCG c/o Yichang Institute of Geology and Mineral Resources P. O. Box 502, Yichang, Hubei, China	要旨等は 2nd Circular で (要求期限 1986年10月31日) US\$ 150
Workshop on Computer Applications and Management of Petrological Date Bases 1987年9月12—23日 Kuwait	Dr. Ali T. Al-Mishwt Geol. Dept. Kuwait Univ, P. O. Box 5969, Safat, Kuwait または, Dr. John Durham British Geological Survey 154 Clerkenwell Road London, England.	詳細は直接左記へ クウェート大学及び政府から 宿泊, 食事の便宜あり